

令和5年度 第4回あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議 摘録

1. 日時：令和6年2月28日（水）13時00分～14時45分

2. 開催場所：麻生区役所 第1会議室

3. 出席者

(1) 委員

吉松委員長、森副委員長、村井委員、岡倉委員、高橋（慶）委員、伴委員、増田委員、吉垣委員、小山委員、河村委員、佐野委員、依田委員、高橋（由）委員

欠席 岡部委員

(2) 事務局

須藤事務局長、大塚地域みまもり支援センター副所長、門馬地域支援課長、野口児童家庭課長、宮川高齢・障害課長、加藤保護課長、泉衛生課長、高橋保育所等・地域連携担当課長、川口危機管理担当係長、森下企画課係長、齊藤生涯学習支援課長、藤原地域ケア推進課長、船山地域ケア推進課係長、麻生地域ケア推進課主任、長瀬地域ケア推進課主任

4. 次第

1 開会

2 議事

(1) 第6期麻生区地域福祉計画の進捗状況について

(2) 第7期麻生区地域福祉計画の策定について

・市民説明会及びパブリックコメントの報告

・計画案の最終修正と概要版について

(3) 地域包括ケアシステム推進に向けた取組について

・麻生区社会福祉協議会の次期地域福祉活動計画について

(4) その他

①次期「あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議」に向けて

②事務局からの連絡事項について

3 閉会

【配布資料】

委員名簿

座席表

あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議開催運営等要綱

資料1 第6期麻生区地域福祉計画 進捗状況

資料2 第7期川崎市・各区地域福祉計画案に係る市民説明会及びパブリックコメントの結果について

資料3 第7期麻生区地域福祉計画（案）

資料4 第7期麻生区地域福祉計画・概要版（案）

資料5 麻生区地域福祉活動計画の策定について

資料6 車座集会のお知らせ

5. 公開・非公開の別 公開

6. 傍聴者 0名

7. 議事摘録

1 開会

2 議事

(1) 第6期麻生区地域福祉計画の進捗状況について

資料1を基に事務局より説明後、委員から意見聴取を実施。

岡倉委員 資料1は12月までの状況で、1月～3月分が加わるという理解でよいか。昭和音楽大学が福祉施設でボランティアを行うと聞いたので、ぜひ入れていただきたい。また、「ちいきのちからシート」を小学校で活用したということだが、具体的に教えてほしい。

事務局 「ちいきのちからシート」については、長沢小学校4年生の3クラスで、1クラスずつ、シートを使った地域のつながりや参加の意識を高めてもらう授業を行いました。小学生版シートとして、わかりやすい内容の質問項目に答えてもらうことで、自分とみんなの違いを理解してもらい、地域の理解を深めてもらうような授業として実施しました。

岡倉委員 取組5「小地域単位での健康づくり」において、「講座終了後、2か所で体操グループが活動を開始し、立ち上げ支援を行った」というのは素晴らしい事業だと思った。小地域でやったからこのようなよい結果が出たのか、状況をお聞きしたい。

事務局 対象エリアは新百合ヶ丘駅から距離があり、地域の中で何かできないかということで、行うまでの間で民生委員児童委員や町会の方と話し合いを重ねてこの講座を行いました。横のつながりができ、最終的には地域で継続してできることがあればよいということが狙いで実施したところ、もっとやっていきたいということになり、会館等の屋内スペースはないけれど、公園ならできるということでグループができあがったという経過があります。現在も継続して地域の人たちが主体となって行っており、今後も継続できるように支援しています。

岡倉委員 素晴らしい取組である。

村井委員 素晴らしい取組だと思う。色々やっていく中でみんなが元気になっていく。もっと色々な人たちに知られていくことが併せて必要。色々な地域で似たようなものはあるが、身近なところであるというのは素晴らしいと思う。

岡倉委員 取組7「保健福祉に関する情報発信の充実」について、企画課でデジタル町内会「いちのいち」に毎月情報を発信してもらった。福祉情報も含まれているので、ぜひその実績も入れてほしい。

(2) 第7期麻生区地域福祉計画の策定について

- ・市民説明会及びパブリックコメントの報告
- ・計画案の最終修正と概要版について

資料2、3、4を基に事務局より説明後、委員から意見聴取を実施。

岡倉委員 随分わかりやすくなった印象を受ける。先日「多摩区支え合いのまちづくり推進会議」に行ったところ、「概要版を何部作るのか」ということが議論になり、印刷部数が少なく、どうやって広めるのかという話になっていたが、麻生区は何部作るのか。

事務局 計画冊子400部、概要版700部を予定しています。

依田委員 700部は少ないように思う。

事務局 3年間使っていくことになるので決して多くはないですが、できる限り必要な方には届くようにしたいと思っています。配付をどう行うかは検討中ですが、福祉関係の活動団体には確実に届けていきたいと存じます。計画冊子か概要版か、どちらがよいかはそれぞれの団体と相談して、配るだけではなく、お時間をいただければ説明しながらお渡ししたいと考えています。ホームページにも3月末には掲載し、できるだけ多くの方に見ていただけるようにしたいと存じます。

岡倉委員 概要版の最後のページは「お役立ち情報を発信しています」という視点で書いていただけるとよいと思うが、もう遅いだろうか。長寿日本一はもうよいのではないか。子育て情報、健康づくり情報、地域を知る情報、地域の居場所や認知症カフェなど、Webとつなげて6つ位並べて、「お役に立ちます」というふうにしてもらえればよい。そういう機会があればぜひお願いしたい。また、市ホームページがリニューアルされると思うが、QRコードは大丈夫であるか気になった。

依田委員 普及はどうするのか考える必要がある。この計画が今後3年間の地域活動の羅針盤であり、これから区民や団体が活動を始めるときに、麻生区はこういうことが大事で、こういうことをやろうとしているということがわかれば、全体のパワーが変わってくると思う。区役所にとっては、行政計画を実施するというイメージの仕立てになっているが、区民に向けての計画であってほしいと思う。書き方も利用者目線で書かれたほうがよいし、配布も具体的計画を立てて、初年度は冊子を大切に活用する方がよいと思う。

また、第7期ができたばかりだが、第8期をどうするかを大事にしたほうがよいだろうと思う。当会議に出ていて、作る側の努力は感じながらも、計画の中身を抜本的に、わかりやすく使い勝手のよいものにするのは難しいように感じた。これから3年間あるので、さらに使い勝手のよいものにする。そもそもこの厚い冊子は必要なかなど、最初から検討していくことが必要だと思う。

市の説明会に参加したが、各区の計画を横並びに見て比較すると、区の姿勢、メッセージの届きやすさが違うように感じる。幸区の計画体系図(幸区説明会資料11ページ)を見て驚いたが、基本目標4つのうち、「ひろがる」「つながる」の2つが住

民主体で、「とどく【共助・公助】」と「すすめる」は行政主体で進めるという括りであることがはっきり書かれている。他の区は、テーマは書いてあるものの誰がやるのかが曖昧であったが、幸区は一緒に地域を作っていくという姿勢が示され、とても元気の出る書き方であるように思う。

地域包括ケアは住民にも動いてもらう必要があり、住民の側に、押し付けられたという感覚が無くはない。行政がやる、住民もやる、ということのを合わせた計画がこれだ、という表現を希望している。

高橋(慶)委員 こうした会議に出席すると色んなことがわかるが、出席していない他の町会長や自治会長にとっては、情報が入ってこないで内容がつかめず関心を抱くことがない。地域の中の福祉ということであれば、できれば各町会の町会長には、概要版などを配付していただければと思う。

村井委員 皆様のご意見や、地域の様々なアンケート、地域の声でこうした計画が出来上がったと思う。

9ページ以降に掲載してある統計データは重要で、客観的なデータとなる。作成の度に提案していることだが、計画期間の推計値を踏まえて、未来を予測して計画を作成し、計画終了年次にこうなるので、そこにどう対応する計画なのかというところをリンクさせていけるとよい。例えば、9ページ①「人口・世帯」が右肩下がりになるのであれば、計画の重点項目の何番と何番がこれに対応している、といった関係性が示せたらよいと思っている。推計が難しいものもあるだろうし、この段階でこうなっているからこの先もこうなるだろうというおおまかな評価でもよいが、どう対応していくのかということが計画の意義となるだろう。

それから、今回チャレンジいただき、重点項目における活動指標について、具体的な現状と目標という数値を取って置くこととなった。地域福祉計画はスローガンのような計画になりやすいのだが、そうすると実態がなくなるので、客観的な目標を立てていくということは大事であるだろう。ただ、数値に踊らされて一喜一憂しても仕方がないので、どのくらいのボリュームで増加させるのか、力の入れ具合を指標としていることを、気を付けなければいけない。評価する際も、数字の増減だけでなく、「なぜその数字に達しなかったのか」あるいは「なぜ数字を大きく上回ったのか」ということに意味がある。

しかし、指標を出したことにより、次回の評価はやりやすくなっていくだろうし、とてもすごいことである。目指す姿なども、基本的には「こういう状態になっている」といった表現をされており、以前は「充実します」など抽象的であったが、可能な限り具体的に展開しようとする努力が進んでいると感じた。

また、行政計画に住民がどのように関わって推進・展開していくのかが問われる中で言えば、願わくば、この計画が地域の中で浸透し、地区社協や町会・自治会の事業計画と足並みが揃うということが大戦略になるだろうと思う。つまり、計画に掲載している目標は麻生区の目指している流れ・方向性であるので、自治会・町会、地区社協も合わせてその方向に進むということが大切となる。(取組の)どこに力点を置くのかということは、地域の状況により選ばれるものは変わってくると思う

が、計画を推進する中でシンクロさせながら展開し、どのように小地域の中に浸透させていくかということが大切となる。

また、そのようにやっていくと、個々の町会・自治会、地区社協から、やってみたらこうだったというフィードバックが出てくる。それが次の計画の大前提になっていき、これが行ったり来たりすることによって、実態が伴う計画策定と推進という構造化が進んでいくだろうと考えられる。

そのためにも、概要版が試金石となりそうである。これをどこまで提供し、どうやって使ってもらえるかが勝負となるので、できれば概要版の活用方法について、アドバイスとなる資料等を作っておいた方が良さだろう。そうしたものが無いと、「麻生区役所、頑張っている。お疲れ様です。」ということで終わってしまいそうなので、(計画及び概要版の活用により)町会・自治会や地区社協が、重点目標なり基本方針のどこに重点を置いて足並みを揃えていくか決めて、区役所に連絡をいただいて、協働の機会を探る、といった呼びかけをできたらよいように思う。それを次回は事例として、「●●地区は重点目標●に取り組み、こうした結果になっている」といった実践的な地域の実情や活動を取り上げ、写真付きや動画付きで、コラムなどとして掲載するということになったらよいのではないかと思う。

そのように、これからこの計画をいかに生きたものにしていくかというところが大変重要なので、ここにいる皆さん全員に広報戦略大使となっていただき、地域に浸透させていただきたい。区役所だけの仕事ではなく、私たち自身の仕事として各地域や各分野や専門関係、それから地域・個人の中に浸透していくことが大事で、違和感があったら、それをお寄せいただいて、ここで審議する機会があればよいと思っている。

(3) 地域包括ケアシステム推進に向けた取組について

- ・麻生区社会福祉協議会の次期地域福祉活動計画について

資料5を基に高橋(由)委員より説明後、委員から意見聴取を実施。

岡倉委員 重点事項にアイコンが使われているが、アイコンをタッチすると事業が出てくるようになっているのか。どんな使い方をされているのか教えていただきたい。

高橋(由)委員 資料の最後にアイコンの説明がある。10の取組項目それぞれ、わかりやすいようにアイコンをデザインしている。社協が取り組む事業にもつけて、どういう考え方のもと進めていくのか示している。使い方について良いヒントをいただいたが、具体的な活用については全体で協議していく中でご意見として頂戴したい。

依田委員 社協の地域福祉活動計画(以下、「活動計画」とする。)について地域で活用しようとする時に、区の地域福祉計画とどのような関係なのかがわかりにくい。せっかくの計画なので、地域の人が読んだときに、どちらも理解が広がるように工夫していただくと活用できると思う。

村井委員 社協の活動計画と区の地域福祉計画は、これからも足並みを揃えて相互に連携しながら進め、策定や推進も合わせてやっていく必要があると思う。
活動計画を見せていただき、気になった点を述べたい。活動計画は社会福祉法に基づいて社協活動を計画的にやっていく上で、特に住民が主体となって自らの行動を進めていき、社協は事務局としてサポートする色合いが強いものである。社協自身の事業計画は、社協発展強化計画という別の計画があり、活動計画は地域住民が中心となって自らがどう地域福祉を推進するかということに言及する計画でなければ本来の趣旨と異なってしまうように思うが、そのあたりがやや混在し、(活動計画に)社協が事業を進めるといった表現が見られる。社協を構成する様々な会員が、自分たちの分野別で議論して地域福祉をどう進めていくか意思決定することを、社協が事務局としてサポートする形になるはずなので、本来は「住民がどうするか」という表現が、第一義に主語として出てくるかと思う。「社協が何をするか」と読めるところについては、社協発展強化計画と活動計画を取って混ぜているのか、重なってしまったのかわからないが、今後ご検討いただいた方がよいかと思う。

(4) その他

①次期「あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議」に向けて

今期会議に参加した感想や次期会議に期待することなどについて、委員から意見聴取を実施。

高橋(由)委員 先ほどの村井先生のお話はその通りで、市社協でも議論をしているところ。
さて、地域福祉計画の会議に参加させていただいたが、その間、コロナ禍や能登半島地震などもあり、日常の地域のつながり、地域活動の推進が非日常を支えていくということを痛感する場面がとても多くあった。地域福祉計画と地域福祉活動計画が車の両輪のように、麻生区のこれからの地域福祉を推進していけるように、密に情報共有や連携を意識した具体的な事業の取り組みをしていきたいと思っている。引き続き社協の取組についてもご協力いただきたいと思う。今後ともよろしく願いしたい。

依田委員 次期計画がさらにわかりやすく、整合性のある、活用できるものに向けて進んでいくことを希望する。どうしても発言が、区役所の方、社協の方に地域マネジメントをお願いするものが多くなってしまいが、村井先生がおっしゃられた通り、推進するのは誰かと言えば、住民であり社会資源であり地域の資源だと認識している。具体的に頑張っていきたいと思っているので、よろしく願いしたい。

佐野委員 色々勉強させていただいた。福祉計画とは言っても、コミュニティ計画、まちづくり、地域づくりと一緒にやっていかなければいけない。色んな人を絡めて一緒に作っていくものだというところをつくづく実感している。小地域活動計画やまちづくりなど、耳触りがよい文言があるが、本当にそれらが実践できるように、次年度以降、色んな人を絡めて、これが絵空事に終わらないで事業として展開していくようなものに、私たち自身も責任を持って進めていきたいと実感している。
気になったのは、高齢者福祉のところ、認知症絡みが多いと思うが、老人性鬱も

深刻だという話を聞いたことがある。麻生区は高齢化率が高いので需要も多くなると思われるし、見えにくい部分を地域でどうやって発掘していくか、その対応などが増えていくと思う。

また、両地区社協が連携して事業をしようということで、多様性を尊重する社会を目指すというところで、LGBTQ の講演会を両地区社協主催で初めて行った。かなりの方に来ていただき、次年度も、色んな意味での多様性を、地域住民への啓発を推進していく話が進んでいる。連携できるところは自分たちの業務範囲を超えてつながって連携し、それが面となって麻生区全体の地域福祉が底上げになっていくことを期待していきたい。私たちも努力していこうと思っている。

河村委員　これから自分が、何ができるかと思ったところ。委員としては、麻生区に住む障害のある方の生活全般がより良い形になるようにという地域自立支援協議会のメンバーとして参画していたり、社会福祉法人の一職員として川崎市や麻生区に貢献できることがあるとか、現在所属している、川崎市から委託を受けて障害のある方の相談支援をしている障害者相談支援センターの職員として関わることが、麻生区の福祉計画の中で色々あると思っている。一つ一つ、できることから行っていきたいと思っている。

小山委員　こういう計画が丁寧に作られていくのだということを実感している。村井先生から、これを広げていく広報大使だというお話があり、私もこの委員会に参加するまで福祉計画をちらりとしか見ていなかったもので、地域包括支援センターでも共有を進めていきたい。高齢者のお宅に訪問したり地域活動に関わることが多いので、そういったところで自助を含めて介護予防というあたりのお話をさらに伝えていきたいと思っている。

吉垣委員　皆さんの色んな意見を、そうなんだ、と思いながら聞かせていただいている。私は子どもが主体の子ども関連ネットワークから来ているので、子どもたち、子育てしている親からの目線で伝えられればと思っていた。概要版は子どもの親御さんにも届くように配付させていただければと思っている。

吉松委員長　今期ほど、委員の皆さんから活発にご意見をいただいた会議はなかったと思う。今後もこのような活発な会議が続けばよいと期待している。麻生区が長寿日本一になったということで、男女ともに一位というのはすごいことで、区民の皆さんもなぜそうなったのか、興味を持っていらっしやると思う。麻生区がどういう取組をしているのか、今まで興味がなかった人が興味を持っていただいているだろうと思うので、ぜひ広報に努めて色んな人に知っていただきたいと思った。

岡倉委員　先ほどの社協の重点事項1のところ、「他人ごとから自分ごと　そして、みんなごとへ」と書いてあるが、「みんなごとへ」というのが気に入っている。社会で地域でみんなで解決しようという話だろう。自分のことから、人のことから。自分が活動していく中での道しるべのような感じで進めていきたいと思う。

伴委員　2期6年続けて、やっとわかるようになってきた。最初の3年は何をやっているかよくわからなかったが、続く3年でなるほどと思うようになり、それほど難しい会

議だったのではないかと思う。社会福祉士でもあるので、ベースの知識はあるが、それでも理解するのに時間がかかった。区としても社協としても、啓蒙啓発に力を入れる立場だと思うが、それを誰が隅々まで届けるのか、つなげるのか、汗をかくのは誰なのか、そこが薄いのは仕方がないことかもしれないが、村井先生から宿題を出されたように、これから区民みんなで汗をかいて浸透させる、広げていくということがずっしりと響いた。社会福祉士として一人で活動していて、すき間をつなげるような立ち位置で、特に高齢分野でやっているが、潤滑油となって活動を続けていきたいと思う。

増田委員 今回、公募で初めて参加させていただいた。地域の福祉計画はこういうところで立てられていることを初めて知った。区民が主役の地域づくりと書いてあるが、区民でありながら、地域づくりに参加していないというのを痛切に感じた。というのは、日中は仕事で町にいない。町会は役割として回ってくるので、班長になると新しく転入してきた方に町会加入を勧めるのだが、どうやって町会の素晴らしさを伝えて加入を勧める言葉をかけることから難しいということが経験上ある。戸建てが増えて新しい方たちが入ってきている地域に住んでいるのだが、向こう三軒両隣、どのような家族が住んでいるのかわからない。正月にあった地震のような大きな災害時に、地域で助け合いや、つながることができるか、町会で暮らしていると思う。自分も地域に住んでいるので、何かお役に立ちたいと思ったのが、この会議に参加したきっかけである。そう思っている人は多いと思うが、どこに行ったらよいのかわからない人が多いだろうし、一歩踏み出すのが難しい。私の家にも退職した夫がいるが、動けるし、何かやりたいと思っていると思うが、町会の理事などをやっても、それが後に続かない。一人ひとりの持っている力をどうやって地域で役立てるといえるのか、つなげていけるのかが大事だと思う。今回参加して、大変勉強させていただいたと感じている。

高橋(慶)委員 この10年の間に、地域の景観が変わり、地域にグループホームや老人ホーム、デイサービスなどが増えている。介護事業所の運営委員会で、町会、高石地域包括支援センター、デイサービスに参加している方、グループホームの代表の方、身内の方、職員の代表の方と3か月に1回、1時間ほど会議をしている。いつも学んでいるのは、老人ホームにいる方も大変お元気で、デイサービスの75歳から85歳位の方が、こういう話をする場があって嬉しいとおっしゃる。そういうことが地域の中にあるので、区全体として見ていただくと、そういう観点からも地域は変わっているのだから、これから先も見えていただき、第8期につながっていくように、ご健闘をお祈りしている。

森副委員長 民児協の近況を兼ねて、お話をさせていただくと、取組19の地域情報交換会について、令和5年度は1月に麻生東第三民児協で行った。エリアは百合丘と東百合丘で、民生委員19名と自治会・町会70名のご出席があった。4つのグループに分けて活発な意見交換がされた。いこいの家も遠くて、町会に集まる場所がないので居場所づくりをしたくてもできないという以前からの民生委員さんからの課題があり、その話をすると、近くの町会長さんから、自治会館を利用できるという情報提

供があった。初めて会長さんとお話をしたという委員も多くて、お互いに顔がわかり、今後につながれたというのは良かったと思う。お互いの活動内容について理解を深めて、地域の支え合いネットワークの強化を目的とした事業として来年度も続けていきたいと思っている。会長さん以外にも地域で活動されている方、ボランティアの方なども参加していただけたら、もっと広がりができるのではないかと感じた。次は3月に柿生第二民児協で開催予定である。

また、市の民児協で、会長研修会があり、200 数名の参加があった。個人情報を活用した地域との連携、協働体制づくりというテーマで村井先生にご登壇いただき、大変わかりやすく、先生の熱量が伝わるというたくさんの人たちからの感想をいただいた。私自身も個人情報と聞くと、難しいという意識があり、情報をもらっても後ろめたさと隣り合わせで、すっきりしない活動をしてきたという思いがある。先生のお話で活動のポイントをわかりやすく教えていただいたので、これからの活動に生かしていきたい。

皆さんの貴重なご意見をいただきながら、民生委員としてもっと頑張らなければいけないと思いながら参加させていただいた。

村井委員

委員の皆様にご意見をくださったこと、そして事務局が事業を推進し、課題を抽出してくださったことによって、今日があるということ、皆様のお力に感謝と敬意を払いたいと思う。また、そういう場に参加させていただけるという光栄な機会をいただき、少しでもお役に立てるようにと頑張った。

今回、計画案がまとまったが、これから地域福祉計画や地域福祉活動計画をみんなのものにしていく中で、自分が述べた意見や自分が関わった問題意識が計画に載っているという実感があると、担い手になってくれるだろうと思っている。小地域の中で計画に対して何か意見を申したり、地域の課題を言葉にしたら、それが計画に吸い上げられる仕組みを作っていくながら、みんなの声が本当に計画に届いているという実感を推進の中で培っていくことが非常に重要な取組になっていく。そして、それが結局、人材、担い手の発掘の基本中の基本になるのではないかなと思う。問題意識を持ったり、自分ごとと考えるのは、そこに対して意識や経験や自分の意見を語る機会があるからこそ、初めて自分の問題意識になってくると思う。そういうことを、計画書を浸透させる過程の中で、「あなたは どう思う」、「こう思う」、「だったら、この計画にはもっとこれが必要だ」などということが吸い上げられていくような仕組みが大切で、場合によっては地域の車座などで計画書をテーマに議論をした上で吸い上げていくことも良いだろう。できれば町会・自治会の中の事業計画に、一つでも二つでもよいから重点目標や推進目標を組み込んでいただいて、その結果どうだったかをいただくなど、循環させることが大事である。

もう一つは、地域福祉を推進するには、様々な主体の連携が必要。20 年以上経験して研究してきた中で一つの結論に至ったが、連携がうまくいくのは3つの要素で構成されている。

まず、目標をどこまで具体化できるか。たとえば「いつまでも住み慣れたまちで生き生きと安心して暮らす」といった抽象的な目標では、実現はなかなかしない。何

をすればよいかわからないからである。ところが、「3週間以内にAさんに傾聴ボランティアを2人ほど見つけよう」という目標であれば、何をすればよいかわかるし、自分の役割も明確になる。実はそれを明確にしてくれているのが、この計画の個別の目標になっている。かなり具体的な目標が設定されてきたから、さらにそれを自分たちの地域の中でより具体的な目標として設定し、実現を目指していただくことになろうと思う。目標の一つの指針が計画に示されているので、それを活用していただきたい。

そして、もう一つの要素は、相互の役割分担をよく理解すること。民生委員に全部お願いする、自治会長よろしく、地区社協さんよろしく、というように丸投げになってしまうと、連携ではなく押し付けになってしまう。役割分担ができるには、ちょうどいい依頼をお互いにし合っていく。でもそれができるのは、相互の活動内容や役割を理解し合っているかどうか、という社会資源同士の交流や相互理解がどこまで進むのかが問われている。自分以外の活動がどうなっているのかを知る機会を少しでも増やしていかないと、勝手にお願ひすればやってもらえる、もしくはどこかで誰かがやってくれているだろうという話になる。自分にも役割があるし、できることがたくさんあるということをお互いに理解し合いながら、ちょうどいい役割分担をどう作っていくのか、ということが二つ目の課題。

三つ目は、普段からのコミュニケーションを充実させること。先ほど森委員からお話いただいた情報共有の部分にもなる。個人情報を含めて困っている方がいるというのをいかに共有できるかによって、役割を分担し、どうやって支えていくかという目標も明確になる。個人情報も含めて、地域の中で様々な情報交換やコミュニケーション、意思決定が行われるような会話ができる地域づくりというのをしていかなければならない。これの原点は挨拶である。挨拶ができなければ会話ができるわけがない。挨拶から立ち話、立ち話から悩み事、だんだんアップグレードしていく、そんな地域を作っていくことが大事だと思っている。

そのようにコミュニケーションを図っていくための一つの大きさとして、地域ケア圏域というのが出てきているのではないかと思う。概要版を開くと地域ケア圏域が示され、冊子の中にも地域ケア圏域の定義がある。完全な小地域とは言えないが、やっとエリアができてきて、この中に構成されている多様な主体の人たちが、自分たちの地域はどうなんだろうということを、この計画の期間に話し合う機会を作って目標を改めて確認して役割も分担し合いながら進めていけるような機会が今後作れていったら本当によいと思う。地域ケア圏域をどう生かすかが、次期の新しい課題と期待している。物理的に距離が近い人たちで問題意識を共有し、最後は町会・自治会等で、より具体的な身近な計画や実践につながっていけばよいと思っている。たとえば新百合ヶ丘駅近くと岡上では課題が違うので、生活課題や地域概況が近い方たちが意見を交換しながら課題を解決する取組になる貴重なきっかけだと思う。

こういったものも今後ぜひ生かしていけるように進めていきたいと思う。ありがとうございました。

②事務局からの連絡事項について

委員の改選、資料6について事務局から説明し、質疑応答

岡倉委員 車座集会について、高齢化率が高い白山地区を選んだ理由、そこで「つながり」をテーマに選んだ理由について教えてほしい。

事務局 白山地区については高齢化率が50%を超えているところもあり、区の中でも高齢化が進んでいる地区となっています。白山地区で「つながり」のモデルを作ることができれば、ほかの地区にも横展開していけると考えており、一つのモデルケースとなることを意図して、白山地区を選んだというところ。

岡倉委員 よいチャレンジだと思う。まだ「お助け隊」というのはあるのか。

事務局 あります。

岡倉委員 頑張っていたきたい。

3 閉会

14時45分閉会